

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4072500483		
法人名	株式会社 松寿		
事業所名	グループホーム 松寿苑	(ユニット名	洋棟 )
所在地	福岡県大川市本木室1005-8		
自己評価作成日	平成23年11月5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年12月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な暮らしが出居るように努め、出来るだけストレスなく一人一人が好きなように、毎日の生活を送って頂けるよう支援しています。また、採用基準を設けず、意欲のある方なら、小さい子供がいる方や10代や60、70代の方でも勤務調整をし来て頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

同敷地内にある自宅と木工所を改装し、自宅を「和棟」ユニット、木工所を「洋棟」ユニットとしており、それぞれが違う雰囲気のあるホームである。和棟は2階があり、階段昇降が不安な方でも安心して生活ができるよう昇降機が設置されている。また、リビングにはコタツもあり利用者、職員が共有した時間を過ごせる家庭的な場がある。利用者一人ひとりの思いや希望を大切に実践していこうとする基本理念である、「地域と共に自分らしく笑顔で安心して暮らせるわが家」を職員全員が共有し実践に向け取り組む姿がみえるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とリビングの目立つ所に掲げ、安心安楽に過ごして頂けるよう努めている。	「地域と共に自分らしく笑顔で安心して暮らせるわが家」を基本理念とし、玄関・リビングに理念をかかげ、また毎日の申し送りと月1回の職員会議での勉強会にて理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等にはなかなか参加出来ていないが、散歩の際の挨拶で少しの交流は図っている。	ホームで行なう秋祭りに地域の方に来ていただいたり、ホーム設立当初から小学校の方から利用者へ手紙をもらう等の交流が続いている。	自治会(町内会)に入会をして、災害時の協力をお願いしたり、地域の行事へ参加する等、地域との親交をより深めるような取り組みについて検討する機会を持つことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	力を活かした地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している運営推進会議では、利用者の状態やホームの状況報告等をし、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、会議を開催し民生委員、市役所職員、地域のコミュニティセンター前会長、家族・利用者代表の参加を得ている。会議ではホームの実態、家族からの相談事・要望、行事の報告等を行っているが、出された意見についての検討を行っていない。	参加者から出された意見等については、話し合いを行い、ホームの運営やサービスの向上に反映されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことがあれば電話や窓口にて相談している。また、2ヶ月に1回の運営推進会議や秋祭りに出席して頂いている。	市役所に出向いたり、電話等にて介護保険関係について等、相談を行っている。日常的に連絡を取り協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はせず、出来る限り自由に動いて頂けるように努めている。	基本的に日中は玄関の施錠は行っておらず、夜間(夕方6時から朝7時まで)のみ施錠を行っている。また、職員一人ひとりが、身体拘束について理解しており、勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時には必ず身体の確認を行い、異変があれば直ぐに上席者への報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員での話し合いの場はまだ、設けたことが無く活用できていないが、成年後見制度についての研修には、出席可能な職員で参加し学んでいる。	現在1名の方が成年後見人制度を利用している。職員は、外部研修や伝達研修で学ぶ機会を持ち制度について理解している。また、家族にはいつでも情報提供できるようにパンフレットを用意している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解や納得して頂けるよう十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日頃の会話の中から、家族等は来苑された際にできる限りの会話を行い、意見や要望を聞くようにしている。	面会時にその都度要望や意見を聞いている。玄関に意見箱を設置しており、面会が少ない家族には電話での報告時に意見等を聴くようにしている。個別の広報誌(松寿苑新聞)も送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より意見や提案があればその都度聞き、また、月に一度の会議で話し合うようにしている。	管理者は職員との対話を積極的に持ち、時には個別に意見や提案に時間をかけて聴く機会を作っている。利用者のケアについては全体ミーティングで検討し、より良いケアを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況は把握しているが、向上心を持って働けるような職場環境、条件の設備に努めてはいるが、まだ不十分な所もある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関しては基準は設けていない。10代や70代の方にも意欲のある方は働いて頂いている。また、社会参加(特に学校行事)や自己実現の為に勤務の調整を行っている。	職員採用に関しては基準を特に設けておらず、仕事に対し意欲を持っている方を採用している。また、休暇取得や自己研鑽のための研修参加や資格取得においてはホームからも積極的に情報発信し、支援できる体制ができています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新職員には、定期的に面談し、説明、指導を行っている。研修には積極的に参加し、会議の中でその研修の報告を行っている。	研修は管理者が中心となって参加しているが、伝達研修及び個別に勉強会の場を設けている。また、職員の利用者への言葉かけに対し、気になる時はその都度、個別に指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量を把握し、個々の能力にあった研修に参加して貰っている。また、参加後には研修報告書を作成している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム意見交換会に参加、そこで訪問しているだけでまだ取り組みは出来ていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話可能な方には耳を傾け、会話不可能な方からは、日頃の状態観察の中から感じ取れるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と職員の会話を大切にしている。不安や要望があった際には、出来る限り受け安心して頂けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意見を第一に考え家族と話し合ったうえで、より良い支援が出来るよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うことを重に、出来る方とは会話を楽しむことで、より家族に近い関係を築けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来苑時には、日頃の様子を伝え会話の機会を持つようにしている。また、無理の無い程度で協力を仰ぎ、支援への参加を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所にあたり行ったりすることは、なかなかできていないが会話の中で伝え忘れられない様努めている。	病院受診の帰りやドライブに行った際に、以前住んでいた場所や行きつけの商店に立ち寄っている。また、行きつけだった美容室や洋服店にも行き、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いを好まない方も多いため、本人に任せ見守りをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にいつでも相談に応じられることを伝え、他の施設や病院等に移られた方でも近くを通った時には面会をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情、態度から思いをくみ取るよう心がけ、本人本位の支援に努めている。	入居前に、本人及び家族に生活暦やどのように過ごしたいかを聞いている。また家族の面会時に要望等を聞いたり、日常の会話の中から本人の意向を把握し、意思疎通が困難な方は本人の動作や表情等から汲み取りプランに反映している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様から話を聞いたり、会話が出来ない方は家族から話を伺うことで、暮らし方の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック、業務日誌を毎日記録し全職員で目を通している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と主治医と時間が合わない為家族の意向や主治医の意見を参考にし、担当者会議にて話し合い介護計画を作成している。	かかりつけ医に聞き取りを行ったり、家族の面会時に要望等を聞きとっている。毎月の職員会議時に利用者一人ひとりの介護計画について全員で検討し、それぞれの意見をプランに反映している。その後、家族の面会時にプラン内容の説明を行い、同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日書き残し全職員で目を通して見ている。支援上見直しが必要の際は、会議で話し合い活かせるよう努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を第一に考え、出来る限り柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人より要望があれば支援できるよう取り組んでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は可能な限り家族に付き添っていただいている。家族付き添いが不可能な際には、苑より同行している。	入居することでかかりつけ医を変更することはなく、本人及び家族等の希望を大切にしている。訪問診療以外は家族対応であるが、家族が同行できない時や救急時の対応は職員が受診に同行し、受診結果を家族へ電話で説明し安心していただいている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があった時にはその都度、報告を行い適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診で来られる病院関係者との関係づくりはできているが、以外は出来ていない。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や主治医と話し合いを行い支援できるよう取り組んでいるが、本人との話し合いは出来ていない。	看取りの経験はないが、入居時に、家族へ重度化した時の終末期の説明を行い同意を得ている。現在、家族より退院後はホームで看取りまで、との希望をされ、終末期における看取りの説明や話し合いをしている。今後については、全職員で情報を共有しながら本人、家族や主治医と連携を密にし支援に努める態勢ができていく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の説明を受ける程度で、定期的な訓練は出来ていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の防災訓練と予告なしでの緊急連絡回しは行っているが、地域との協力体制は築けていない。	年2回昼夜を問わず防災訓練を行っており、消防署より避難経路や避難場所等の指示を受けている。緊急連絡網等はリビングの見やすい場所に貼付されている。	火災訓練は行なっているが、地震や水害等の災害訓練についても取り組み、また、近隣住民の協力を得ながら、災害訓練を行なうことが望まれる。災害時に供えた備蓄品等の準備をすることも望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の好まれる対応を心がけ、また誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	言葉使いは特に気をつけて、尊敬の念を持って接するようにしている。また本人が方言の方が親しみがあると希望する時は、その時の状況に応じ声かけしている。特に排泄においては本人の人格を尊重し、周囲に気づかれないようさりげなく、「トイレに行きましようか？」と声かけをしている。記録等は事務所で保管してプライバシーの確保に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いはず、本人の思いや希望を大切にしよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりを作らず、本人のペースを大切に過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理容を利用している。また、必要に応じて買い物に出かけたりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備を出来る方は居ない為行っていないが、食器を流し台まで運べる方には運んでいただいている。また、個々にあった食事形態で出すようにしている。	自分で出来る事が少なくなっているが、後片付け等本人が出来ることが一緒に行なっている。食事は職員と一緒に同じものを楽しみながら食事をしている。食事形態は、とろみ食やミキサー食、刻み等個々の利用者に合わせ提供している。献立は、専任の調理員がその日の食材を見て調理しているが、「だご汁が食べたい」との利用者の希望を取り入れて調理することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録に残し、栄養不足の方には高カロリー飲料、水分不足の方には好みの飲料を提供するよう工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄を行い必要に応じて、訪問診療からの指示をうけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い失禁を減らすよう支援している。	昼夜問わず排泄が自立している人は2名である。一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い失禁の回数を減らす取り組みをしている。夜間はあえて睡眠を妨げないようパット交換を行ない、覚醒された時はトイレ誘導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分や乳製品の摂取と腹圧や腹部マッサージを行い、必要に応じて主治医に指示を仰ぎながら予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人の希望があれば、いつでも入浴できるようにしている。	入浴は週2回10時から15時で対応しているが、本人の要望があればいつでも入浴できるようにしている。また入浴を好まない時は本人の体調等をみながら、介助職員を変えたり時間をずらしたり、声かけも工夫している。入浴しない時は足浴等で対応し無理強いはしていない。時には入浴剤を入れたりゆず湯等入浴の楽しみを味わっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節と個々にあったタイミングでの臥床を心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬の名前、効能を記した一覧表を目立つところに貼りに皆で確認している。また、症状や薬の変化、変更があれば業務日誌に記入しに皆で目を通している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや気分転換の支援は出来ているが、たばこや酒は病状の問題もある為出来ていない。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望の方は、出来る限り散歩やドライブをする様支援している。また、季節の花見や川下りを行事として取り上げている。	気候や体調に合わせ散歩を行なっている。往復の歩行が難しい人には、行きは車椅子を歩行器代わりにし、帰りは車椅子に乗ってもらう等、個々に合わせた散歩を試みている。また季節毎に桜や藤、つつじ等のドライブを楽しみ、川くだりは家族も一緒に参加してもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、お金の管理は苑で行っている。希望があれば同行しお金を使用できるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればやり取りができるよう支援しているが、家族との連絡が取れない時間帯には時間まで待っていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に気を付け毎日の掃除も欠かさず行っている。また、壁に利用者の製作品を飾ったり季節の花をテーブルに置き、眺められるよう工夫している。	共有空間の窓からは明るい日差しが差し込み、訪問時はクリスマスツリーが飾られていた。壁には利用者が作った折鶴の作品や、家族が作成した貼り絵が展示されている。利用者はソファーに座ってテレビを見る人、「和棟」は和室で洗濯物をたたむ人、コタツに入っている人、それぞれが自分の家としてくつろげるよう工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子をリビングや玄関に置き、好きな場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持ってきていただき、好きな場所に配置して貰っている。	「和棟」「洋棟」がある。全室空気清浄機が備え付けられ室内の換気に配慮している。居室は一人ひとりの生活や好みに合わせ置の部屋や床の部屋がある。ベッドやたんすは本人、家族の好みの物が持ち込まれ、本人が安心できるよう家族の写真や作品が飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に合わせ見守りや介助を行っている。		